

開講期間	配当年	単位数	科目必選区分
前期	1	2	必修
担当教員			
中馬 成子			
火4			
添付ファイル			

科目の概要	看護学の主要概念である人間、健康、環境、看護について理解し、広い視野からの看護活動について学ぶ。対象を全人的に捉えるための基礎的な知識を養うとともに、看護の機能と役割、看護活動を展開する場、看護の対象となる人々の健康と病気、生活、ライフサイクルなどについて学ぶ。看護の歴史的変遷、看護学教育の変遷を踏まえてヘルスケアチームにおける看護の位置づけ、チーム医療における看護の役割について理解する。さらに、看護活動を展開するための法的基盤、看護実践のための理論的根拠、倫理、看護を提供するプロセスについて理解する。
授業の内容	<p>第1回 看護とは 第1章 看護の歴史 看護の定義 看護の役割と機能</p> <p>第2回 看護とは 第1章 看護の継続性と連携</p> <p>第3回 看護の対象の理解① 第2章 人間とは 人間のこころとからだ 人間のニード 人間の暮らし、生活者としての人間</p> <p>第4回 看護の対象の理解② 第2章 人間と健康 健康と環境との関係</p> <p>第5回 看護の対象の理解③ 第2章 看護の対象としての家族、集団、地域</p> <p>第6回 国民の健康状態と生活① 第3章 健康の定義 国民の健康状態</p> <p>第7回 国民の健康状態と生活② 第3章 国民のライフサイクル</p> <p>第8回 看護の提供者① 第4章 職業としての看護</p> <p>第9回 看護の提供者② 第4章 看護職の資格・養成制度・就業状況</p> <p>第10回 看護の提供者③ 第4章 看護職者の継続教育とキャリア開発</p> <p>第11回 看護における倫理① 第5章 倫理の原則 現代社会と倫理 医療をめぐる倫理の歴史的経緯と看護倫理</p> <p>第12回 看護における倫理② 第5章 看護実践場面での倫理的ジレンマ 実習中における倫理的問題</p> <p>第13回 看護の提供のしくみ 第6章 看護サービスの提供の場</p> <p>第14回 看護の提供のしくみ 第6章 看護をめぐる制度と政策 医療安全と医療の質保証</p> <p>第15回 看護の活動領域 第7章 国際化と看護 災害時における看護 定期試験</p>
学習到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 看護への関心を高め、看護学の基盤となる主要概念を理解することができる。</li> <li>2. 看護活動の専門性とその理論的根拠について理解することができる。</li> <li>3. 看護活動展開のための法的根拠と看護における倫理の重要性について理解することができる。</li> <li>3. 看護の歴史的変遷、看護教育の変遷を理解し、今後の展望について考えることができる。</li> <li>4. 保健・医療・福祉システムとしてのチーム医療における看護の役割について理解し、今後の課題について考えることができる。</li> </ol>

授業の方法	<p>【授業形態】 講義、小テスト</p> <p>【アクティブラーニングの取り入れ状況】</p> <p>【ICTを利用した双方向授業】</p> <p>【その他特記事項】</p>
成績評価の方法	<p>【評価項目】 期末テスト、小テスト、課題レポート</p> <p>【割合】 期末テスト60%、小テスト30%、課題レポート10%</p>
教科書・テキスト	<p>茂野香おる他著：系統看護学講座専門分野1 看護学概論 医学書院  日本看護協会監修：新版 看護者の基本的責務一定義・概念/基本法/倫理 日本館協会出版会</p>
参考書	特に指定しない
授業時間外の学修について（事前・事後学習について）	次回の授業箇所を予習し、授業後はノートに授業ででてきたわからない専門用語をまとめる。
履修上の留意事項	看護を学ぶ上で最も基盤となる科目です。看護の歴史や看護職者の役割及び機能を学びながら、看護の対象の捉え方、看護の考え方、医療に従事する者としての倫理観なども培ってください。
オフィスアワー	月曜日～木曜日 12時00分～13時00分
課題に対するフィードバックの方法	提出した課題レポートについては添削して返却する。
実務経験	看護師
その他	なし